



第二幕

第二幕第一場

《タイタン海軍「サンダーボルト」艦長日誌》

現地時間七月二日一五三八時、地球軌道で待機していた船団を襲ったティターズ部の部隊は当艦及び地上砲台の支援により撃破された。勝った。といっても「ピュロスの勝利」に過ぎない。敵はこちらの戦力を威力偵察しただけのことだ。主力はL1、L3にうじゃうじゃいる。

当艦の受け持ちは極東アジア担当の船団と決まった。これを小惑星国家連合艦隊と共に護衛する。指揮官は本官がつとめる。上がって来るシャトルは次々に輸送船へ横付けし、人を吐き出してはまた降下していく。彼らは故郷を棄てる。多くは二度と戻ってこれないだろう。彼らが再び安寧を取り戻せるかどうか、それは我々の働きにかかっている。



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.138)

(舞台には垂れ幕がかかっており、そこには「アメリカ国防総省 戦術AI分析室」とある。二人の男が登場)

- 下っ端 主任。例の作戦シミュレーションっすけど。
- 主任 おお、負け組一号。どうした？
- 下っ端 そのあだ名、マジやめてくれないっすか？ オレ、モノじゃねえんで。
- 主任 ほんのジョークさ。でどうした？
- 下っ端 試行回数^{しこうかいすう}一〇〇回こえたんで、いちオー^{しゅうけい}集計とったんすけど。
- 主任 それで？
- 下っ端 真 (true) かえしてきたの、三七回分だけっす。



主任 おい、そいつはまずいな。スパコンの再チェックしたか？
下っ端 fsck 走らせて、あとベリファイチェックかけたすけど、オールクリアっす。
主任 するとA I側のエラーじゃない。まずったなあ。
(二人、悩む)

下っ端 マジやばいすか、これ？
主任 おエラ方がつくった作戦プランだぞ。長官も国連トップもサインしてる。成功率が三七%だなんて報告できるか？ 責任問題になるなあ。
下っ端 でもソフトの出力結果、これっすよ。
主任 この脳なしが。そんな分析、上にあげてみろ。お前も俺も水星送りだ。エライさんのメンツつぶしてタダですむと思うか？ 俺は責任とらんぞ。
下っ端 そんな一、オレだってイヤすよ。じゃどうすんすか？
主任 そうだなあ。うまい手ないかなあ？
(主任、考える)

主任 よし、じゃあこうしよう。
下っ端 なんかあるんすか？
主任 あのな、要するに国連軍の戦力値が足りないから、シミュレーション上のティターンズに負けるってわけだ。パラメータの問題だよな？
下っ端 まー、そうっすね、たぶん。
主任 ようし。じゃあ、国連軍の戦力係数を二倍にしろ。
下っ端 え〜っ、イイんすか？
主任 かまうもんか。人類は最強だからな。あとティターンズの方は半減だ。
下っ端 でも主任。それちょっと、改ざんってヤツじゃ……。
主任 ならお前さんはだ、おエラ方のプランは使い物にならん、と爆弾発言をやらかすってか？ つまらんこと、考えるなよ。俺にはまだ家のローン残ってるんだ。
下っ端 でもっすよ、もし数値いじってんの、上にバレたら……。
主任 心配すんなって。おエラ方にはな、細かいデータのチェックなんざ、できっこ無いのさ。さっさとクソA Iにハッピーなデータ喰わせて、ハッピーな出力持ってこい。それでエライさんハッピー、俺たちハッピー、万事OKなんだよ。
下っ端 はあ。けど、そこまでやる必要、ホントにあるんすか？
主任 ムダ口たたくな。さっさ給料分ジョブしろ。滞留案件は山積みだぞ。あとな、レポートに例の「地球バンザイ」ってクソフレーズ、忘れず貼っとけ。
下っ端 へいへい。
(二人とも退出)



(舞台には次の垂れ幕が。そこには「**アメリカ国防総省 宇宙軍総司令部**」とある。二人の男が登場)

特使 以上が、戦術A I 分析室から上がってきたレポートです。

参謀総長 ふうむ、成功率が七三%。七三%ねえ。

特使 この明快極まりないインテリジェンス報告にご納得されないとは心外しんがいですな。

参謀総長 いやー、例えば戦力算定の手法だがね、三〇一ページのアペンディックス。

特使 それがどうかしましたかな？

参謀総長 うーん、ティターンズをいささか過少に見積もりすぎでないかね？

特使 思いません。妥当な範疇はんちゆうです。

参謀総長 それとだ、全体的に違和感があつたねー、つまり私のいいたい……。

特使 つまり将軍は、この雄渾ゆうこんなる一大反攻プランに、つまり聡明そうめいなる国連高等弁務官ケント氏の完璧かんぺきなプランにご不満がおりなのですか。

参謀総長 いやー、なにも君い、そう決め付けられては……。

特使 ケント氏の父君は国防長官閣下。平民へいみん (civil) 上がりのあなた風情ふぜいが逆らえるとも？ シビリアン・コントロールへの反逆ですか？ お立場を考えてください。

参謀総長 なあー、わたしはただ専門家として見解を述べただけで……。

特使 それを反逆と言うのです。これは長官に報告しなければ。失礼。

参謀総長 待ちたまえ。つまりだねー、別口から戦力をまわせれば堅実けんじつじゃないかね。いや、あくまで見解だよ。ケ・ン・カ・イ。逆らってはおらん。な、特使どの。

特使 どこから戦力をまわせますか？ 予備は全て出払っています。(を肩をすくめ)

参謀総長 ハイパーコープの施設を防衛するためにな、国民ではなく。(と立って外を見やる)

特使 将軍。早くご承認のサインを。ただサインなされば、万事解決なのです。

参謀総長 おお、そうだ。一つあった。

特使 今度は何です？ (とうんざりそうに)

参謀総長 外世界の連中だ。たしか土星から来ている空母があつたな。(と振り返る)

特使 だからどうかしましたか？

参謀総長 彼らへんにゆうを編入しよう。大した活躍もすまいが、数%は高まるといいなあ。

特使 将軍。これは地球防衛の作戦プランなのです。栄光あるわが合衆国が母なる星を救すうこうう崇高な場面で、下賤な劣等国にまで勝利の名誉を分け与えろと？

参謀総長 まあまあー、彼らには側面警戒そくめんけいかいを割りあてればいい。数は力だよ。

特使 結構です。では成功率を二〇%分プラスしてレポートを上奏じょうそうしましょう。

参謀総長 なあ、そのだ、そこまでやる必要、本当にあるのかね？

特使 作戦の成功率が高まると言ったのは、あなたの口です。それにあなたのような不満分子がまたどんなケチを付けるやら、知れたものではない。そうになったら我々全員の失態しつたい。あなた一人の愚行ぐこうで、どうして私までトバっちりを……。

参謀総長 待て待て、わたしはプランに反対しておらんよ。



特使 ではここにサインを、宇宙軍参謀総長。(とパットの一点を指差す)

参謀総長 ああ。(とサイン)

特使 地球バンザイ！ 合衆国バンザイ！（と勢いよく右手を上げて退出）

参謀総長 はいはい、地球バンザイ。(とダラダラ右手を上げて肩をすくめる)

(二人とも退出)

(舞台には次の垂れ幕が。そこには「**アメリカ大統領 執務室**」とある。二人の初老男性が登場)

国防長官 ご覧ください。成功率九三%ですぞ、大統領閣下。完璧なプランの勝利まちがいなしですぞ。(と手に持ったパットを振る)

大統領 それはよかった、ケント長官。(と距離をとる)

国防長官 つきましてはこの反攻作戦の指揮官ですが。わが息子が立案者である以上、彼が適任かと。全ては地球のため、人類のため。

大統領 なるほど。だがご子息は軍人ではあるまい？

国防長官 わが家は代々エリートぞろいでして。その上、大学時代に軍事学を受講しています。指揮能力は十二分ですぞ。彼が国連の高等弁務官であることもお忘れなく。

大統領 なら国連軍の指揮官になれなくはないか、君がそこまで言うならば。

参謀 では閣下のサインをここに。(とパットの一点を指差す)

大統領 君もサインしてくれ。私との連名で責任をとるといふこと。(とサイン)

国防長官 結構ですとも。(とサイン) さらにもう一点。わが国の宇宙戦略に関して。

大統領 なにかな？

国防長官 コミュニストです。下劣なコミーを宇宙に出してはなりませんぞ。

大統領 それで？

国防長官 タイタンと小惑星国家群は、大統領閣下もご存知のように、汚らしいコミーのアヘン窟。コミーごときが独立国家など、不届き千万！ 早急に抹消しなければ。

大統領 ほう？ 技術……社会主義国家……だったかな……それほどの脅威だろうか？

国防長官 コミーは所詮テロ。人類の未来のため、テロリストを浄化すべきですぞ。

大統領 彼らはすでに独立国だ。わが国も承認しておく。違うかね？

国防長官 腐ったリンゴは他のリンゴを腐らせませぬぞ。国民にいつまでアカい土星を見上げさせるおつもりか！？ と、わが懇意のマスコミ各位から批判の声が。

大統領 マズいな、そういうのは。世論にひびくと後が怖い。

国防長官 じつは妙案がありまして。

大統領 どんだけだ？

国防長官 この作戦プラン、国連安保理にかける必要がありますなあ。

大統領 形式的には国連軍の共同作戦だからな。それで？

国防長官 わが息子の力を使い、その場にタイタンとその他コミー国家どもを丸ごと呼び



つけましょう。奴らをまじえて議決をとるのですぞ。

大統領 社会主義国家を？ かえって紛糾せんかね？

国防長官 まあ、お聞きなさい。奴らが召喚に^{しょうかん}応じなければ、国連をないがしろにしたテロ行為という口実で武力制裁を^{はつどう}発動しましょう。やって来て作戦プランに反対する場合、親ティターズ的のテロということで、国連軍で^{ぶんさい}粉碎すればよろしい。

大統領 タイタンその他が賛成したら？

国防長官 その時は奴らの軍艦をティターズの拠点へ突撃させるのです。勝てば命じたわれらの功績。拒めば奴らのテロ行為であり、全ての責任は奴らにありますぞ。

大統領 なるほど。それで？

国防長官 さらに国連を通じてコミーに戦力の増派^{ぞうは}を命令し、奴らが国を空っぽにしたところで、テロ勢力鎮圧の名目で強襲揚陸艦を送りこみましょう。なに、四隻あれば小国の一つや二つ、ピンポイント爆撃での制圧なぞ造作もない。木星につづいて土星に星条旗を立てる好機ですぞ。これも地球の勝利。(とニンマリ笑う)

大統領 地球に来ておるタイタン軍艦はどうするかね？

国防長官 拿捕を視野に入れて検討中です、大統領閣下。目下のところ監視にとどめるのが得策かと。機を見て奇襲^{きしゅう}、が最善策ですぞ。

大統領 それでガス・ジャイアントを二つとも支配か。ビッグチャンスではある。

国防長官 そのとおり。たとえ他国が壊滅しようが、わが合衆国は水素とヘリウムを元手に復興可能ですとも。月でも火星でも、いやいや、遠い遊星とて併呑して、いよいよ太陽系帝国ですぞ！（と興奮）

大統領 月のヘリウム資源に依存せずともすむなら、インドへの配慮はもう気にせずともよい*1。わが国が十分な燃料を得た暁には、全国民の避難先を確保できる。これで中間選挙を乗り切れるだろう。

国防長官 とはいえ、まだまだ各船団の空席をかき集めなくては。われらの別荘や家財一式を安全地帯へ輸送するには空きスペースを相当食いますしな。

大統領 ふーん、まだ空いている船団があったのかね？

国防長官 第八電子戦連隊が国連の輸送計画表をハッキング中でして。現時点では東アジア担当の船団に、なんと七万人の難民テロリスト(笑)を見つけました。そいつらのスペースを収奪できれば、^{しゅうだつ}またもや合衆国の勝利ですぞ。(とニンマリ)

大統領 やりすぎはいかんよ、君。そこまで貧民をいじめる必要があるのかね？

国防長官 なんとナイーブな(と笑い)……すでに戦争は始まっております。そして勝者だけが太陽系の支配者足りえるのですぞ。手段なぞどうでもよろしい。

大統領 できるだけ合法的にだ。国務長官と協議のうえ慎重に進めてくれたまえ。

国防長官 承知しました。地球バンザイ。(と右手を上げる)

*1 Refer to *Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010), p.82, 83.



(二人とも退出)

(場所は変わる。今度はサンダーボルトの艦長執務室。狭いが綺麗に整頓された空間。アリスターは大きめの椅子に、イムは小さめの椅子に腰掛けている。二人は iPad のような板を持ち、それを睨んだり叩いている。アリスターの脇には立体映像が浮かび上がり、地球を背景として延々と宇宙船が並ぶ光景が示されている)



(This image is quoted from "Game Mechanics", *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.112)

<http://eclipsephase.com/releases>

アリスター よくまあ、これほどの人数が乗り込むものだ。「スターリングラード」からの空路による決死の脱出か。嫌な歴史の繰り返しだ。(と顔を上げ、映像を見遣って)

イム 定員六〇万でありますか？ ソウル市の人口に比べれば、まだまだであります。東南アジアの担当は詰め込みだと耳にしました。アフリカ船団は昔の奴隷船さながらとか。画像を見ましたが、ひどい有り様でありましたな。

アリスター いや、人の数じゃないよ。くじに当たって乗船チケットを得た少数派、外れた不運な多数派……チャンスは平等、結果は不平等。生きるか死ぬかの二つに一つ。これがハイテク社会って、何だかな……いや、いいんだ。ソウルか……行ってみたかったなあ。(とため息) 船団司令官なんて、誰か引き受けてくれればいいのに。

イム 南大門は豪壮ですぞ。戦争が終わったら御案内しましょう。(と軽口で)

アリスター それはありがたい。そろそろ有給を消化しないとな。約束だぜ。(と微笑む)

イム ところで文面はこれで構いませんか？ (とパッドを見せる)

アリスター ああ、結構だ。送信してくれ。

イム 送信します。ただー今、完了。

アリスター これでどこまで片付けたっけ？

イム はあ、艦長。(とパッドを操作し) 通達済みの相手は、ロシア沿海州群 (Coast Provinces of Russia)、イルボン (Japan)、フィリピン (Philippine)、コリア共和国 (ROK)。



アリスター 残りは？

イム 台湾 (Taiwan) であります。

アリスター あそこも乗り込み、続いているんだよね？ 割り当ての席が減るなんて、みんな怒るよなあ。(とため息) だいたいさ、直前になって収容人数の削減って何それ？何が「**保安上の理由**」なんだか……つたく、責任者出てこいって！ (と憤慨)

イム まあまあ、艦長。国連司令部からの通達であります。致し方ありますまい。

アリスター やれやれ。じゃあ、ちゃっちゃと次に取り掛かりますか。(とあくびして背伸び)

イム むしろ一息入れますかな？

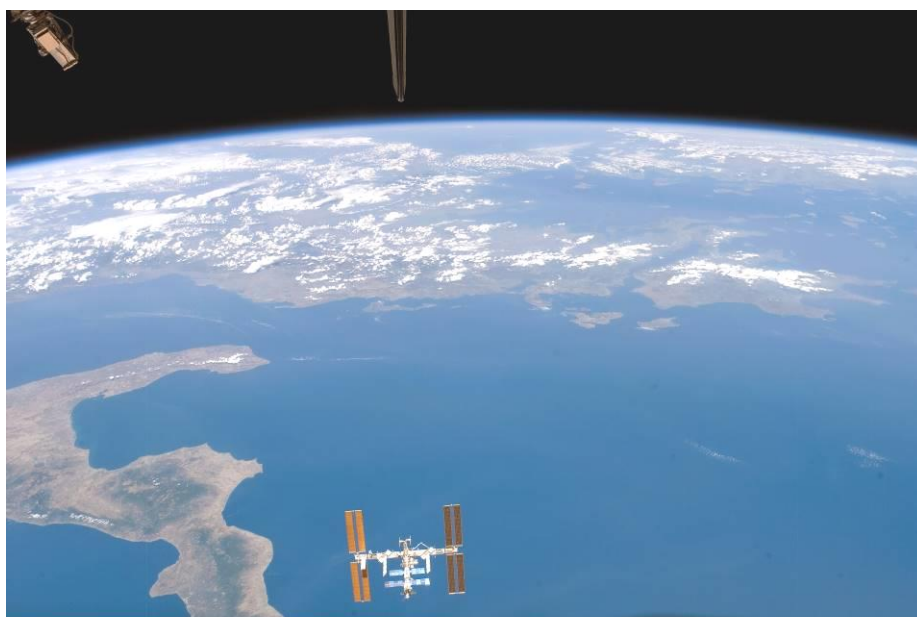
アリスター ウ〜ン、そうだなあ、じゃブレイクタイム。(と目を閉じてまたあくび)

イム それでコーヒーにしますか、それとも紅茶に……。

アリスター いや、以前に君の薦めてくれた、あの独特の、どこか懐かしい感じの……。

イム トウモロコシのひげ茶でありますか。

アリスター それだ！ その天然もの！



(This image is quoted from Astronomy Picture of the Day. (http://apod.nasa.gov/apod/fap/image/0711/earth_sts118_big.jpg))

イム まだ備蓄があります。お持ちしましょう。

アリスター ありがとう。

(イム、退室しかけるが、アリスターのささやきを聞いて立ち止まる)

アリスター (椅子に寄りかかり、瞳を閉じて半ば独り言) まったく人類というやつは……今やわたしたちは、そう、「**トランスヒューマン**」となって死と重力の束縛を逃れ、乗り換えた遺伝子強化の身体は一〇〇年でも二〇〇年でも若さを保ち続け、そして星間航行のテクノロジーを弄んでいる。ところがだ、本家本元の地球では昔ながらの肉体の



まま、飢えや失業におびえる大勢の貧民でひしめきあっている。圧倒的格差、圧倒的断絶……国境・宗教・貧富・民族……「世に盗人の種は尽きまじ」か。これが「シンギュラリティ」なのか？ 一〇〇〇年前の中世と変わらない人の世の有様……（と乾いた笑い）いったい平和の砦とやらはどこにあるんだ、あーあ？

イム （黙って耳を傾けた後で振返って）ダン。主イエスは言われました、「求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん」と*2。平和の砦とは、一人一人が、己の心の中に見出すのであります。

アリストアー そうか、そうだな。（とささやく）

（イム、退出。残されたアリストアー、頭を振り、パッドを取り上げ、画面を叩いて何やら考え込む）

アリストアー そうだ、アルサン。ちょっと聞きたいことが。（と顔を上げ）

AGI アルサン 《なんでしょう、ダン(*^_^*)》（と舞台背景のスクリーンに無音メッセージ）

アリストアー 仮定なんだけど、本官がこれから某国アーカイブズの機密セクションにアクセスするとなると、それは我らの軍規に照らしてどういうことになるのでしょうか？

AGI アルサン 《艦長。いちおう職務ですからお答えしますが m()m、タイタン政府管轄でないとはいえ行政府の管理下にある非公開ファイルへの無許可アクセスは許されません》（と無音メッセージ）

アリストアー いやはや、困ったな、汎用人工知性*3（AGI/Artificial General Intelligence）さんのくせにメッセージが文字化けしてるぞう。せつかく申告したのに、これじゃ監察を受けたことにならないな。もしかしてウィルスの侵入かい？ 君には自己診断が必要なようだねえ。（といかにもわざとらしく）

AGI アルサン 《ダン。ま・た・ですか。あたし、大臣相当の公職者ですよ（`´）。リマインドさせてもらいますけど、軍事オンブズマンのモニタリング権限を軽く考えてもらっては困りますく（`^´）》*4（と無音メッセージ）

アリストアー ごもつとも、ごもつとも。アルサンなしで当艦は立ち行かないよ。業務報告書はいつも出しているだろ。そっちに迷惑かからないって。お願いします、オンブズマン閣下！（と拝む）

AGI アルサン 《もう、どうしようもない人ですね（_-;）。これが最後ですよ。では一五分間、当艦の AGI はクイック診断を行います。いいですか、一五分ですよ（_-）zzz》（と無音メッセージ）

アリストアー ありがとう。本当に助かるよ。（と軽く一礼）

*2 『新約聖書』「マタイによる福音書 7:7」。

*3 Eclipse Phase の公式設定によれば、人間（またはそれ以上）に相当する人工知性。「強化 AI」（Stronger AI）とも。Refer to *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, pp.244-245.

*4 現行諸国家における軍事オンブズマンの実態については、ハンス＝ポーン、エイダン＝ウィルズ、ベンジャミン＝S＝バックランド「軍隊の民主的統制のためのジュネーブセンター（DCAF）政策文書-No34 軍事オンブズマン組織に関する比較研究」（Geneva centre for the Democratic Control of Armed Forces, 2011, <http://eee.dcaf.ch/publication>）



(舞台、数分間フェイドアウト。以下はフェイドインするまで音声のみ)

アリスター お世話になっております、エージェント・プロキシ (proxy)。火星では御協力下さり御礼申し上げます……ええ、それはもう……引き続きイギリスの方々と共闘できて光栄です*5……ええ、X-Risk は本官たち人類共通の脅威^{きょうい}ですから。それで先般御願^{きょうい}いした情報に関連して、追加の……あ、もう御手配を？……はい……はい……恐縮^{きょうしゆく}です。ではこちらはお求めのファイルを返信します……ええ……その条件で了解です。続報をお待ちしています。ではまた。(と猫なで声で)



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.138)

(アリスター、ささやき声で語る)

アリスター 悪人に休日はないってか。一日くらいサボりたいよ、ファ〜ッ。(とあくび)

(その六〇秒後に会話のみ始まる。フェイドアウトのまま)

イム 艦長は起きておいでなのだな、アルサン。

AGI アルサン 《うん、起きてるけど(^_^)》(と無音メッセージ)

イム そうであるか。(と微笑) イム副長、入室の許可を求めます。

アリスター 入れ。

(フェイドイン。舞台の端からイムが小箱を持って戻ってくる。アリスターはパッドを裏にしてテーブルに置き、急須とカップ二つを出す。イム、茶を入れる)

*5 EP の公式設定によるとファイアウォールの前身の一つはイギリスの諜報機関である。 *Eclipse Phase: Firewall ver1.1* (Posthuman Studios. ,2015) p.16; またタイタン連邦はファイアウォールに対して比較的穏健な態度をしめす星間国家の一つである。 *Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition*, p.361 and *Eclipse Phase: Sunword*, p.156.



アリスター うーん、美味しい。(とカップから啜りながら)
イム ウリナラ^{でんとう}伝統の名物であります。(と目を閉じて香りを楽しみ)
アリスター 天然ものはやっぱ香りがいいねえ。
イム 音楽をかけましょうか。
アリスター 頼む。

(イム、パッドを軽く叩く。と、バイオリンに似た弦楽の音が流れてくる。アリスターは椅子をリクライニング・モードに変え、背と足を思い切り伸ばす)

アリスター うーん、良い感じ。あとこれでカキイーアイスあればなあ。
イム カキイー、アイス？……人名でありますか？
アリスター あれ、知らない？ えーと、ジャパンのシャーベット。暑い夏に氷を砕く。で上から砂糖とコンデンスミルクかけて、食べると頭がリセットされる。
イム イルポンの氷菓子？ 初耳ですなあ。ピンスの間違いでは。
アリスター さあ？ そうかもね？ 同じアジアだし。
イム ピンスでよろしければ、食堂につくらせましょう。小豆をのせますかな？
アリスター 別にいいってば。ちょっと思い出しただけ。
イム 艦長はイルポンの^{こくじょう}国情に御詳しいようでありますな。
アリスター 実は住んでた。二年ほどね。
イム ほお、そうでありましたか。ではあの島国をよく御存知ですな。
アリスター それがな、^{ぜんりょうせい}全寮制の学校に入れられてなあ。父のせいだ。しかしまあ^{ちんみょう}珍妙な国だった、ジャパンってのは。もっと寮を脱走してよく見とけばよかった。フジヤマとかバンザイアタックとか。こどもの頃とはいえ、うかつだったよ。でもね、副長、^{ほんば}本場のスシバーに行ったぞ。あれ良かったなあ。(と思い出し笑い)
イム ^{こうかい}後悔さきに立たずでありますな。しかし「バンザイアタック」？ (と首をかしげ) その、艦長の言われる「^{ちんみょう}珍妙」とはどの点を^{おっしや}仰っておいでなのでありますかな？
アリスター そうだなあ……まず^{あいきつ}挨拶だね。
イム ほう、^{あいきつ}挨拶、でありますか？
アリスター そうさ。ジャパニーズってさ、なにかっていうとすぐ「アイム・ソーリー」だろ？ でさ、こっちが話そうとしたら、んなこと言った^{やきま}矢先に逃げてくんだぜ。
イム なるほど。艦長には御納得できないのでありますな。
アリスター そうそう、あとジャパニーズはさ、治安が悪い悪いってよく言ってたけど、^{まるごし}日本のポリス、なんと丸腰なんだぜ。^{じゅうげきせん}銃撃戦なし、爆弾テロなし。ギャングだってピストル持ってないし。せっかくヘックラー&コッホの9mm持ってったのに一度しか撃たなかった！ 悪い悪いって、どこが治安悪かったんだろ？
イム はあ、艦長にはそれも御納得できないのでありますな。



アリスター　　ところで君の故郷、スシバーとかゲイシャはないの？ 同じアジアだし、似たようなのあるんじゃない？

イム　　確かにどちらも東アジア圏に属しておりますが、違いも多々ありますな。

アリスター　　フーン、そんなものなの？

イム　　我らが土星と隣の木星とは、同じ太陽系の国だと言えますかな？

アリスター　　でもまあさ、銀河の中心から見たら、大して違わないかもね……じゃあ、君の故郷ってどんなところ？（と身を乗り出す）

（イム、しばらく沈黙）

イム　　その……私が生まれた国には「幸福センター」という国営施設がありまして……かれこれ半世紀は稼動しております。元来は孤児や貧困者向けの教育施設だったそうです。アメリカの模倣だとかで、一種の収容所でありますな。

アリスター　　なるほど。でも？

イム　　ですが今では多種多様な人間が、特に政府にとって耳障りな言行をする人間がそこで「教育」されるのであります。それはそれは辺鄙な荒野にある広大な敷地でして、灰色の高いコンクリート壁に囲われ、内部の様子は全く見えません。四六時中、黒煙を吐き続ける煙突の他は。

アリスター　　なんだか気味悪い場所だね。

イム　　一度内部に入ったことがあります、無許可で。全て自動システムでしたな。警備や清掃用のボットがいたる所を巡回しております。人間は一人もいない。声すらしない。ほんの入口で引き返したのであります。

アリスター　　ねえ、その、入った理由って……聞いていい？

イム　　私の父は……気骨のあるジャーナリストでありまして。政財界の癒着に関する記事を書いたのでありました。記事はボツになり、その直後、家族ともども行方不明になりました。後で知ったのですが、みなセンターに連行されたそうであります。赤子だった姪を含めて。私は火星に逃げ、その後でタイタンに亡命したのであります。もう四〇……四二年経ちますかな。

アリスター　　そうか……お身内の不幸を知らずに下らん質問をしてしまった。謝罪を受け入れてほしい、イム中佐。（と立ち上がって頭を下げる）

イム　　いいのであります、艦長。御存知なかったのは貴方の責任ではありません。それに過ぎた話で、どうにも仕方のなかったことであります。

アリスター　　そうだろうか？

（アリスター、イム、共にしばらく沈黙）

アリスター　　イム……その、わたしの祖母はね、ハイチの黒人だった。今もそうだけど、



カリブ海は貧困の地でね。奴隷制が常態化^{じょうたいか}している。アダム＝スミスは人間の労働力を金銭にたとえた。だがあそこでは、クローン体じゃないぞ、いいか、生きた人間を売り買いするんだ。バイヤーが男の子、女の子を……わたしはこの目で見たんだ。裏路地の小屋に連れて行かれた子供たちが、何をされたかを。

イム 人権擁護^{じんけんようご}団体は何をしていたのでありますか？

アリスター アハハ（と空笑い）……ねえ、イム。知ってる？ ポチョムキン村ってやつ。ハイチには業者の寄付金^{きふきん}で建てられた、腐敗政府^{ふはいせいふ}ご自慢^{じまん}のモデルシティあってね。

イム 欺瞞^{ぎまん}でありますな。

アリスター ああ、そうだ。昔風^{むかしふう}に言えば、わたしはムラートだ。奴隷の子だ。ニグレスっていうのは、わたしのことだ。なるほど、奴隷制にだって理屈や伝統がある。だからといって、わたしたちは君のご家族に、売られていった女の子に、プランテーションで酷使^{こくし}され死んでいった黒人奴隷に、あなた方の境遇^{きょうぐう}は仕方ない、なんて言えるだろうか？

イム 御気持ちはよく分かります。地球が楽園^{らくえん}でない事実は我ら承知の上。ですが各国の制度には文化的根拠^{ぶんかてきこんきょ}があり、たとえ部外から非合理に見えようとも、それは現地社会を永続^{えいぞく}させる上で相応に合目的^{ごうもくてき}なのであります。どれほど異質に見えようと、他国の制度を全て否定しきることは何人にも許されずまい。

アリスター 君はかつての生まれ故郷をかばってるのかい？（とイムを見つめる）

（イム、静かにほほえむ）

イム ダン。私はタイタン市民であります。愛国心^{あいこくしん}とは他国に愛憎^{あいぞう}を持たず、同胞^{どうほう}市民に二心を懐かぬ涼やかな心意気です。（と口調を和らげ、静かにアリスターを見返す）

アリスター うん、そうだな……付き合ってくれてありがとう、同胞^{どうほう}。（と思わず目を軽く閉じてうなじをまさぐる）……思えば変だよね、わたしたちって。

イム どういう意味で仰^{おっしゃ}っているのでありますか？

アリスター だってさ、わたしたち、どっちもタイタン生まれじゃない。そこの（と後ろに親指を向けて）泥玉出身^{どろだま}だろ？ でも「同胞^{どうほう}」とか「愛国心^{あいこくしん}」って言葉で真っ先に思い浮かぶのはさ……。 （とあくび）

イム ……我らは選んだのでありますよ、ダン。自らの国を。忠誠^{ちゅうせい}を捧げる相手を。金銭や権力^{けんりょく}に惹かれたのではなく、親友^{しんゆう}や生涯^{しょうがい}の伴侶^{はんりょ}を選ぶのと同じように。

アリスター 選んだ、か。選べる自由って、やっぱりいいねえ。（と大きなあくび）

イム 少しお休みになられては。幸い時間はありますし。

アリスター うん、そうだな……いや、やっぱり止めておく。ここでは部下が、地上では大勢の人が苦勞^{くろう}しているんだ。わたし一人が寝ていいことには……。

イム ダン、あなたが最後に就寝^{しゅうしん}したのは何時でありましたか。（とさりげなく）



アリスター ああ？ ああ、さあ、一昨日かな？ そう、一昨日……。

イム はっきり申し上げます。コンピュータの計算によれば、この二週間の艦長の一地球日当り就寝時間は平均四時間です。そうだな、アルサン。

AGI アルサン 《その通りです(-_-)。たいへんよろしくありませーん》(と無音メッセージ)

アリスター えっ？ そうか？ そんなだったかな？？ ファーツ (と大あくび)

イム 副長として、友人として進言します。午睡をおとり下さい。上官が睡眠不足のままでは皆の士気に差し障りがあります。

アリスター なに、大丈夫さ。

イム レンデル大尉がいたら、必ずや同じ意見具申をしていたでありますよな。

アリスター あいつは死んだよ。ここにはいない。(と小声で)

イム では大尉のことはもうお忘れになったと？

アリスター そうは言っていない。

(イム、無言で毛布をアリスターに押し付ける)

イム コンピュータ、照明オフ。(と舞台のライトが暗くなる)

アリスター 珍しく強引だな……。

イム 後ほど起こしに参ります。

アリスター 一時間だけ、一時間経ったら起こしてくれ……。 (毛布にくるまって目を閉じる)

(イム、退室して艦橋へ。アリスター、イムが立ち去ると、毛布にくるまったまま裏返しにしていたパッドを持ち上げり。しばらく叩いては凝視していたが、やがて半身が椅子にもたれかかり、手からパッドが落ちる。静かな寝息の音)

イム 当直。ただ今から二時間、艦長宛てのメッセージは私が取り次ぐ。艦長執務室に誰も立ち入らせるな。(と艦長席に座りながら)

当直士官 了解。

イム 主よ、善きサマリア人に安息を与えたまえ。そして我らにも。(と小声で)



(This image is quoted from "Game Mechanics", *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.113)



(それから一時間以上たって、艦長室で熟睡するアリストアー。とイム、急ぎ足で入室してくる。イム、少し躊躇った後、椅子にもたれかかったアリストアーの肩に手をかける)

イム 艦長、艦長。(とアリストアーを揺さぶる)

(アリストアー、全く起きる気配なし。イム、さらに強く揺さぶる)

イム 艦長、艦長！

アリストアー なんだ、敵襲か………ったくティターンズ^{てきしゅう}の働きバチ野郎^{やろう}……。 (と半身を起こす)

イム 彼らが来ました。(と緊張して)

アリストアー わかったってば。(と不快そうに)

イム 違います。援軍^{えんぐん}であります。

アリストアー 援軍^{えんぐん}？ (とまゆをひそめ)

イム 戦闘機でありますよ、大使が約束した。

アリストアー そうか、もう来たか！ (とシャッキリした顔つきになって、イムの手を握り締め)

イム 着艦許可^{ちやっかんきよか}を申請^{しんせい}しています。許可は出しました。出迎えますか。

アリストアー ああ！ こんなに早く来るとはな。いやア、良かった！ イム、一緒にシャトルベイに行こう！ (と立ち上がって退室)

イム はい、艦長！ (と続いて退室)

第二幕第二場

註

ある者に礼拝^{らいはい}が義務であるためにはその人に三つの条件がなければならない。

- 1—ムスリムであること。
- 2—大人に成長したこと。
- 3—知性（アクル）を有すること。

— 『写真付イスラーム礼拝ガイド』（トルコ共和国宗務庁、2002）

<http://www.tokyocamii.org/publicViews/home/lang:jp/>

ジハードを分類すれば、心の悪と戦う「内面のジハード」、社会的な善行^{しゃかいてき}を行い、公正^{ぜんこう}の樹立^{こうせい}のために努力する「社会的ジハード」、そして「剣のジハード」に区分することができる。私たちはジハードと聞くと、最後の剣のジハードを思い浮かべがちであるが、マッカ※時代から継続的^{けいぞくてき}にあったジハードは、内面^{ないめん}と社会^{しゃかい}のためのジハードで、剣^{けん}を持って戦うことではなかった。（※日本では通例「メッカ」と呼ばれるイスラームの聖地：引用者注）

— 小杉泰『興亡の世界史第06巻 イスラーム帝国のジハード』「第二章 信仰の共同体」（2006）



(非常に広く、奥行きのある空間。数十の戦闘機がズラリと並び、天井にはまぶしい照明が。アリスター、イム、それに他の面々はみな宇宙服を身につけ、空間の向こう側にある広い開口部をみやる。その先には青い地球の北半球が)

アリスター 一一、一二、一三機……コンピュータ、映像を拡大。
何だ？ あれは……おいおい、ずいぶん骨董品だなあ。
イム 艦種データベースに該当あり。ルシン級でありますね。それも……。
アリスター 初期一型。ロケットエンジン二基搭載、大型核ミサイル一本をくわえた……。
イム ええ、通称「ワンショット・ライター」。まだ現役だとは驚きであります。
アリスター 地球っていう星、面白いね。大気の濃い世界ならあれで通用するのもかも。
イム なぜです？ あまり気にされていないようでありますね。
アリスター まあ、兎にも角にも戦闘機が来た。それにあの型のエンジンは悪くない。翼面加重が低いから大気中での運動性もいいし。化石燃料時代のゼロ・ファイターみたいなもんさ。ブーン、バリバリバリ。(と手をヒラヒラさせて)
イム はあ、真空中での戦闘もそう願いたいものであります。

(戦闘機、ぞくぞくと空間に入ってくる)

アリスター ほお、うまい着艦じゃないか。
イム ええ、統制はとれていますね。
アリスター なア知ってるか？ 古いドラマに「謎の円盤UFO」ってのがあってね～。
イム はあ、艦長？

(アリスターとイム、停止した戦闘機の前頭に向かって歩く。イムが合図すると、人員やロボットが戦闘機に近づく。コクピットに梯子がかかり、機体の脚回りに人員とロボットが張り付く。とそこで停止した戦闘機の一機からパイロットと思しき一人、宇宙服に身を固めて降りてくる)

パイロット ここの先任士官は誰だ？
アリスター 本官だ。(と笑顔で)
パイロット あんたか。(とアリスターを凝視し、小声になって) ん？……何だ？……子供だぞ。それも女……何なんだ、この船は……。 (と憂鬱そうに周囲を見回し)
アリスター 本官はタイタン海軍航空母艦「サンダーボルト」の艦長、ダン＝アリスター大佐だ。乗船を歓迎する。(と手を差し出す)
イム 私は副長、イム＝スギル中佐であります。ようこそサンダーボルトへ。
パイロット 小娘艦長ときたか。大した仕打ちをしてくれる、上は。(と吐き棄てるように)

(アリスターとイム、手を差し出してパイロットの前に立つ。パイロット、まるで二人が見えないかのように後ろを振り返る。他の戦闘機からも宇宙服をつけたパイロットらが梯子をつたって降りてくる)

アリスター 通信が聞こえなかったのかな。それとも翻訳インプラントの埋め込み手術を受け



ていないのかな*6。(と片手をパイロットの方に振る) ようこそ、同志。

パイロット 俺はロシア空軍のアレクサンドル＝アルアミラル少佐だ。だが小娘に歓迎されて嬉しいとは言い難い。(と脇見をしながら)

イム 少佐、失礼ではないか。艦長は君より階級が上だ。ここをどこだと思っている。

パイロット 子供を上官に持ついわれはない。ここにお嬢様の出番はないぞ。ここは戦場だ。

イム 君、なんだね、その言い草は！ 話すなら艦長の方を向いて話したまえ！

パイロット 俺たちムスリムは、お外では結婚前の小娘とみだりに挨拶しないことになってるんでな、坊主。

イム 小娘……坊主……はるばるやって来たタイタン海軍に向かって何という……。 (と声のトーンが高くなる)

アリストアー まあまあ、イム。このお茶目のすぎるご仁は本官にまかせろ。

(アリストアー、前に出て無理やりにパイロットの手を握る。パイロット、一瞬虚を突かれるが、すぐに振りほどく)

アリストアー お疲れのようだな、少佐。君の部下共々、メシでも食わんか。案ずるな、ちゃんとハラルに則ったのを出そう。

アルアミラル 腹は減ってない。俺を含めた中隊全員がだ。

アリストアー そうかね、それは残念。せっかくヴォトカでも馳走しようと思ったのだが。

アルアミラル 真のムスリムはアルコールをやらん。

アリストアー あくまで言ってみただけさ。心遣いがわからないのかい？ 何しろ本官は君らのいわば「ホステス」なのだからね。
(と「ホステス」を強調)

アルアミラル うるさいガキだな。(と立ち去る)

中隊、注目！ 全員、与圧室に行くぞ。(と通信で)

イム おい、いい加減にしろ、イワンの馬鹿が。傾注、海兵隊員！

(アリストアー、イムの腕を小突いて)

アリストアー 落ち着け、イム。ここは可愛い小娘の出番らしいぜ。(とほほ笑んで、アルアミラルの戦闘機の方に軽くあごをしゃくる)

イム はあ、艦長。(と不満げに) 整備班、ちょっと来い。(と小声で)

(アルアミラル、広い空間の奥にある「与圧室」と書かれた区画に向かって歩いていく。他のパイロットも同様。アリストアー、その脇に付き添う。アルアミラルたち、彼女を完全に無視する)

アリストアー ここに来て後悔しているの、少佐？ (と穏やかな口調で)



*6 Eclipse Phase の公式設定によると、情報ネットワークを経由し、あるいは翻訳ソフトを使って他言語を機械翻訳することが可能である。Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, pp.181, 237, 244, 249.



アルアミラル 俺は命令でここに来た。それだけだ。(と脇を振返らずに歩いていく)

アリスター 君は本官の能力を疑っているのかな。(と歩調を合わせる)

アルアミラル 疑うもなにも、知らないものは疑いようもない。

アリスター うん。少佐の言う通りだね。知らないものは評価できない。

アルアミラル あんたの国ではどうか知らんが、パイロットの世界はな、全て腕次第さ。あんたの細腕じゃあスティック一つ引けん。違うか。

アリスター なるほど、またまたお説ごもつとも。腕が悪ければ階級など物の役に立たない。

アルアミラル そうとも。無能なやつは有能な士官に指揮権を譲るべきだな。

アリスター もつともだね。(とすました顔で笑って)

(アルアミラルの周囲のパイロット、笑う)

アリスター もつともだ……つまり腕の良い方が上官として相応しいことになるね。性別に関わらず。

アルアミラル どういう意味だ。

アリスター なあに、弱い犬ほどよく吠える、という諺って知らない？ (と笑顔)

(アルアミラル、足を止めてアリスターに向き直る。後ろに従うパイロットらも同様)

アルアミラル それは、俺に喧嘩を売ってる、とそのつもりなのか。小娘。

アリスター いやいや、純粹に論理的考察を進めているだけだよ、少佐。

アルアミラル ほお、そうかい。だが戦いは考察だけでは勝てんぞ。技量が伴わないとな。

アリスター その通り、アルアミラル君！ 技量がないとね。どう、わたしたちは気が合いそうじゃない？

(アリスターとアルアミラル、互いをにらみ合う。アリスターは薄ら笑いを、アルアミラルは険しい顔で。とアルアミラルは振返り、傍らのパイロットに向かって)

アルアミラル ミーシャ、お前の機体をこの小娘に貸してやれ。俺は自分ので出る。異存あるまいな、大佐。(とぶっきらぼうに)

アリスター 結構。で場所は。(と猫なで声で)

アルアミラル 海上だ。台湾の東でやるぞ。

アリスター 高度は。(と嬉しそうに)

アルアミラル 二万フィートから下だ。範囲は三マイル四方。



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios L LC., 2012, p.111)



アリストアー 時間と兵装。(と目を輝かせ)

アルアミラル 三〇分でいいだろう。それまでお前が持てばだが。レーザーのみだ。

アリストアー 了解した。

(アルアミラル、戦闘機の方に戻る。アリストアーは愛想よく笑って、アルアミラルは険しい顔で)

アリストアー ミーシャ君、だったね。頼みがあるんだけど。(と別のパイロットの方に向いて)

パイロット アア？(と険悪な顔つき)

アリストアー 君の機体、できるだけ大切に扱いたい。何か癖があったら教えてくれないか。

パイロット 知らねえな。

アルアミラル 教えてやれ、ミーシャ。フェアー・プレイだ。(と振返り)

パイロット ……全速だとホンの少しだけ左にブレる。成層圏から下でだけ。

アリストアー わかった。ありがとう。(と軽く頭を下げる)

(アルアミラルとアリストアー、並んでいる戦闘機に近づく)

アルアミラル おい女。今からロッテ隊形で降下する。ついて来い！

アリストアー 了解！で、汝はいつから上官になったのかや？

第二幕第三場

註

軍職員は画一的な集団ではなく、多くの下位範疇(例、徴兵兵士、志願兵士、軍隊の種別(海軍、空軍、陸軍、憲兵や特殊部隊))並びに兵卒から将官まで幅広い階層から構成されている。本ハンドブックでは、人権は生まれながらに人間の一部であり、軍人の分類が享受する人権に影響するべきではないという立場をとっている。

とりわけ、「軍服を着た市民」の概念は、徴兵兵士のみには適用されるものではない。徴兵された軍人は強制的に兵役についている一方、職業軍人は志願して入隊している。1994年の欧州人権裁判所の決定の通り、志願して入隊したという事実だけで人権を放棄したことにはならない。

—「軍職員の人権と基本的自由に関するハンドブック」(2008)
OSCE(欧州安全保障協力機構) ODIHR(民主制度人権事務所) <http://www.osce.org/odihr>

(アリストアーとアルアミラル、それぞれ戦闘機に乗っている。互いに目視できるところを並行し、地球の大気圏を降下していく。やがて周囲は真空の黒から青色に変わり、雲を突き抜けてさらに降り、夕日の赤い陽光が淡く照らす中……)

アルアミラル おいタイタン女。どうだ。地球の重力は軟弱な育ちにきついだろう。まだ引き返せるぞ。部下が見ている前に無様に負けるその前にな。



アルアミラル ロシア男は負ける瞬間をみんなに見られたくないのかい？ 男根主義は大変だな。
同情に値するよ。

アルアミラル なるほど口は達者だな。ようし、コンピュータの相互リンク開始。火器管制モードを演習用に切り替える。忘れるな、うちの機体はロシア語の思考しか受け付けないぞ。
トーリ、ドヴァー、アージン……。

アリストアー 切り替え完了。リンク確認。開始時刻はそっちに任せる。

アルアミラル 確認した。始めるぞ。トーリ、ドヴァー、アージン、ヌーリ！

(アリストアーとアルアミラルの機体、「ヌーリ」〔ゼロ〕の合図と同時にパッと分かれる。上下に激しくもつれ合い、相手の後ろを取ろうと縦に横にと旋回をくり返す。五分、一〇分と時間が経過するが、どちらも有効打を出せない)

アルアミラル やるな、小娘。(と独り言)

(地球軌道上のサンダーボルトでは、立体スクリーンに大写しとなったアリストアーとアルアミラルの模擬戦の様子をパイロット、整備士らが食い入るように観ている。方々で大声を張り上げ、手を振り回して叫ぶ)

観客 いけいけ、隊長！ そこだっ、回り込め！

凄いな、ひねり込みだ！

右だ、艦長！ 右右、うまいっ！ イワンをやっつけろ！

あの機動、一〇Gの上いってるぞ！

さすがトランスヒューマンだなア、昔の人間ならとっくに気絶してるぜ！

ミーシャ おい、お前ら。俺はアル隊長の勝ちに一万ルーブル賭ける。応じるヤツいるか！

観客 僕は艦長が勝つのに千クロネだ！

わたし二千！

あたい、隊長の勝ちに五千ルーブル！

オイ、まずいぞ。副長だッ！

(イム、しかめっ面をしてスクリーンの前に立つ。周囲が黙り込む中、イムは口を開く)

イム 諸君。たるんでおるな。私は我が艦長の勝ちに来月分の給料を全額賭ける。

観客 僕もです！

わたしも！

ふざけんな、タイタン野郎！ 俺だって隊長に全額だ！

俺もだ！

あたいも！

AGI アルサン 《あたしも賭けようかしら(° °)》(と無音メッセージ)

イム 意外だな。どういう風の吹き回しであるか、アルサン。確率をもてあそぶのは嫌いだったはずでは。



AGI アルサン 《おもいきって退職後の資産を前倒しでゲットしておこ
うかなって。それにこの賭け、
どっちが勝っても面白そうだし
(^J^》(と無音メッセージ)

イム 艦長がそんなに有利なのか。

AGI アルサン 《さあて。レースの最中に勝率をオープンにするなんて野暮でしょ(^_-)。それにダン相手に確率の計算なんて通用しないしね(^.^》(と無音メッセージ)

イム 違うない。(と含み笑い)

(アルアミラルの機体、急旋回によってアリスターの機体の後ろに付く。アリスター、急降下と切り返して逃れようとする。アルアミラル、相手を追いかけて、ジョイスティックの引き金を引く)

アルアミラル ダスヴィダーニャ、ジェーヴォチカ。(ニヤリと笑って)

(アルアミラルのcockpitに警告音が響き渡る。彼がコンソールを見ると、そこには「兵器システム、自己診断中」のメッセージ。あわててリセットするアルアミラルに対して、急減速したアリスターの機体が後ろに付く。アリスターの機体が二、三度瞬き、アルアミラルのcockpitに別の警告音。コンソールに「被弾、被弾」のメッセージ)

アルアミラル チョールト！ 魔女のバーさんの呪いか、何だこれは!?(と驚いて)

アリスター バーン！ ロシアの男根、討ち取ったりィ！（といたずらっぽく）

アルアミラル 運が良かったな、このサキュバスメ。こっちの腐れチンポ・コンピュータがたま
たま糞エラーになったおかげで……。 (と露骨に不快そうに)

アリスター 本気で「たまたま」だと思っているのか？

アルアミラル 何だと？

アリスター メーザー一回線に切り替える。少し内輪の話がしたい。(と真剣な声で)

アルアミラル いいだろう。

(アルアミラルとアリスター、速度を落とし、横に並んで飛ぶ)

アルアミラル 切り替えたぞ。何だ。

アリスター 本音を聞きたい。そっちの狙いは何だ？ (と問い詰めるように)

アルアミラル いきなり何のことだ。

アリスター 本官は国を発つとき、国連軍に属してティターンズと戦うという表向きの任務とは別に、もう一つ任務を命じられた。いや、そちらの方が本来の、といってもよか



(Quoted from "Lagrange Points", *Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010), p.169) <http://eclipsephase.com/releases>



ろう。各国軍事力の査定だ。

アルアミラル 何だと？ スパイか。

アリスター そうだ。太陽系各地の、特にハイパーコープの有する戦力の内情を探り出す。この戦争はまさに絶好の機会に他ならない。タイタン連邦が長きに渡る軽軍備政策の後、情勢の激変にもなって急ピッチで国軍と諜報システムとを拡充しなければならぬことを考えれば、なおさらだ。これこそ連邦政府が、巨大企業連の走狗と化した国際連合の要請にわざわざ応じ、遠く地球への派兵に同意した真の理由だ*7。このことは駐国連タイタン大使さえ知らされていない。

アルアミラル 筋は通るな。誰だって思い付きそうなことだ。

アリスター 当然この査定任務は、生半可な部隊では達成できない。タイタン軍の新鋭空母サンダーボルトは開戦以来半年、小惑星帯、火星、月、そして地球に転戦した。もちろん表向きの任務を果たしながら、各国の侵攻能力を探り出すために。

アルアミラル つまりお前は疑っているんだな。俺たちがいずれ、お前らを侵略すると……。

アリスター ……少なくとも連邦政府および参謀本部は、だ。タイタン社会はそもそも、地球の自然があくどい独占資本主義者によって荒廃させられ、寒冷化によって職場も住む家さえも失った北ヨーロッパの人々が、祖国存続の最後の望みを託して作りあげた戦うユートピアだ*8。ハイパーコープに弾圧され、地球の国々に棄てられてしまった民主主義、人道に基づく福祉社会の理想、その夢を再び追い求める希望の地だ。我が国の理想は、メッシュ通信網を媒介とするサイバー直接民主制 (Cyber-democracy)、市民一人一人の自立をサポートする技術社会主義、この二つを柱としている。それを支えてきたのが、土星の水素とヘリウムによる自前のエネルギー産業だ。だがこの理想と資源ゆえに、新興国家であるタイタンは貪欲なハイパーコープにいずれ狙われる。いや、すでに狙われてきた。奴らはヒトラーの再来だ。搾取しか知らない奴らには、誠実や道義など微塵もない。金の亡者である地球の権力者に気を許すな*9。これがタイタン社会での常識だ*10。

(アルアミラルとアリスター、しばらく黙ったまま、並行する)

*7 21世紀現在においても、国家的な平和維持活動に複合的思惑が付与されつつある。荻田舞 (衆議院調査局調査員、安全保障調査室)「冷戦後フィンランドの平和活動の変容—なぜNATOとの協力を強化するのか—」衆議院調査局編『RESEARCH BUREAU 論究』第8号 (平成23年12月) ([http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryo/2011ron8.pdf/\\$File/2011ron8.pdf](http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryo/2011ron8.pdf/$File/2011ron8.pdf))

*8 Refer to “The North Atlantic Consortium,” *Rimward*, p.92.

*9 なおこうした対外認識の先行事例としては、第二次世界大戦後のドイツ連邦共和国におけるソビエト連邦への認識がある。大戦後のドイツにおける文民政治家らは、「ヒトラーという独裁者を体験し、生命を脅かされた人間」であり「当時の多くの西側の人々の眼中では、スターリンはヒトラーと重なっていた」。そこでソビエト連邦のことを「独裁支配の国家」であり「彼らは法など知らない。知っているのはただ権力だけであり、自分同様に力をもっているもの」としか交渉しようとはしない「油断すれば、彼らはいつ何時つけ込んでくるか分からない」と見なしていた。大戦後のドイツ再軍備を促した「全体主義体制に対しては、最大限の力をもって当たる」という政治上の強迫観念については、岩間陽子『ドイツ再軍備 <中公叢書>』(中央公論社、1993年)中の「第一章 朝鮮戦争前夜のヨーロッパ」また特に pp.46-47 を参照。

*10 事実、後にタイタンは外国からの侵略を警戒するあまり自国周辺の小天体をタイタン付近へ移動させて防衛基地として改造している。“PHOEBE, SKATHI, AND ABRAMSEN”, *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition, p.107.



アルアミラル さっきから三人称で話してるな。お前個人の見解はどうなんだ？

アリスター 本官の考えはやや違う。が、その前にそっちの本音を聞かせてくれ。それから本題に入る。

アルアミラル ……いいだろう。表向きの国際協力とは別に、俺たちも似たりよったりの任務を課されている。特にタイタンの電脳テクノロジーが上のお望みだそうだ。

アリスター やはりな。我が国はその分野で先進だから。

アルアミラル 俺にはその辺の技術はよくわからん。国を出る時、機体に妙な装置を取り付けられた。たぶん一種の探査機だろう。帰還したら見せてやる。

アリスター 了解した。ここからが本題だ。単刀直入に言う。本官のところに来ないか。

アルアミラル 何だと？

アリスター 本官がお前らの来るのを知らなかった、と本気で思っていたのか。(と鼻で笑う) こちらにも独自のコネがある。ロシア軍の人事データベースには先ほど、じっくり不正アクセスさせていただいた。本官が求めていたのは、お前のような人間だ。

アルアミラル 俺のような、だと？ 俺の何を知ってる？

アリスター 頑固一徹、不偏不党、アッラーを敬い、正義を信じ、悪を憎み、不正に組しない、真の戦士だ。ロストフ防衛戦のとき、抗命罪で危うく降格されるところだったそうだな。だから本官のところに回された。

アルアミラル あれは上がバカだったからだ。勝てる戦さをみすみすフイにするのは俺の信条じゃない。(と苦笑しく)

アリスター おかげでロシア政府高官の隠し財産は失われ、お前はクビになりかけ、四千人の市民が助かった。本官が欲しいのはそういう戦士だ。己の栄達のためでなく、己が仕える目的のために戦える、な。

アルアミラル 俺に亡命しろというのか？

アリスター 本官は国を発つ直前、首相閣下から認可を得た。政治責任は本官が一身に背負う代わりに、これぞという逸材を任務中に見出せば、前歴に関わらずタイタン国民としてサンダーボルトに受け入れることを。事実、今の乗員の一部はそういう現地採用組だ。我が国が建て三〇年、体制はまだまだ幼く、これからの戦いに備えて人材が欠かせない。我が国は宇宙に広く人材を求める。悪に屈しない強い心を。

アルアミラル 俺は大義のために戦うわけじゃない。部下と給料のためさ。

アリスター 今の世の中には、税金から給料を貰い、多くの部下を持ちながら、その部下を食い物にし、その税金を納める市民を足蹴にする外道がいる。産業革命時代の楽道家たちはテクノロジーがバラ色の未来に導くと謳ってた。いまの地球はどうだ？ 天然資源は乱獲され、自然環境は破壊され、貧富の格差、情報格差は広がるばかりじゃないか！ スラム街が地球でも火星でも広がっていく。そのどこがバラ色だ!? タイタン連邦はそういう不正を憎む高邁な理想から、より良い社会をつ



くろうという心意気からつくられた。お前は部下を見捨てない。給料分の仕事を厭わない。巨悪に迎合することもない。それでこそ真の戦士というのだ、少なくともタイタン海軍では。

(アルアミラルとアリストア、また黙ったまま、並んで飛行する)

アルアミラル ……興味深い話だな。だが俺がロシアを棄てると思うか。部下もそうだ。

アリストア ならば部下も連れてくればいい。タイタンをお前のロシアにすればいい。

アルアミラル どういう意味だ？

アリストア お前が推挙する者は全員、我が国の市民として受け入れる。お前とお前の中隊、その家族と友人、お前がこれぞと思う人間は全て。お前が母なるロシアそのものだと、守るに、仕えるに値すると見なす者は全て。そのみんなでタイタンに来ればいい。第二のロシアを造ればいい。土星圏は寛容と多様性とを尊ぶ社会だ*11。困っている者は見捨てない。一つの民族、一つの国家だなんて、そんな馬鹿げた強制もない。ヨーロッパ移民だってアジア移民だって、地球で迫害された少数民族だって迎え入れる。そこにロシア移民がいてどこが悪い。ヒトは誰だってただのヒトじゃないか！ 民族なんて下らない妄想から生まれた排他主義という垣根を越える多重帰属的な共利共栄*12、一色に染まらないカラフルで美しい社会。サラダみたいにごちゃまぜで、異端者・異分子を底なしに受け入れる活気にあふれた社会。それこそ真の「社会主義」、真の平和のはずだ！ お前が望むなら、タイタンをロシア色に染めてくれ。だがタイタンだってお前を染めるだろう。これが本官の、いや、タイタン多元共同体 (Plurality) *13が選んだ現政府首脳の、その名代の答えだ。

アルアミラル ロシア人に祖国を棄てるというのか。立場が逆なら、お前はタイタンを棄てられるか、どうだ。

アリストア 愛国心とは、尽くす側の無私、求める側の誠意、その両方があって初めて成立する誓約だ。本官は憲法と人民に、共に暮らす同僚と部下に、その人たちの幸せに対して忠誠を誓った。もしもタイタン政府が民主主義を棄て、人民を搾取す

*11 かつての地球にあった社会主義体制とは異なり、タイタンは北ヨーロッパの「社会民主主義」国家群 (social democracies) をモデルとして、開放的な経済体制 (open economy) を社会基盤としている。従って国家による市場の独占 (state monopolitics) や経済を統制する中央計画は存在しない。ただし企業 (microcorp) は連邦の所有下にあり、利潤は多元共同体 (the Plurality) の手で社会全体に還元される。また規制すべき案件は人工知能 (AI や AGI) が統括する官僚機構に委ねられる。Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, p.79.

*12 このような多元主義的社会のモデルとなりうるのは、じつは前近代アフリカに見られた「二重帰属や帰属変更も可能な融通無碍な柔構造の社会集団」であろう。いわゆるアフリカの「未開な社会集団としての「部族」がヨーロッパ列強による「植民地支配の過程で」行政上(端的にいえばアフリカ人を分割統治するため)の都合から発明される以前の、ゆるやかな分業体系に基づく「一人の人間が、複数の民族集団に帰属する」アフリカ社会の有り様、また「部族」の境界を超える「異なる民族のなかに、血縁関係を擬したクラン同盟」による「多民族共生」の原理については、福井憲彦、杉山正明、松田素二ほか『興亡の世界史第20巻 人類はどこへ行くのか』(講談社、2009年) pp.252-268, 279-291.

*13 Eclipse Phase Rulebook, p.79にある”Plurality”とは政治学、社会学の専門用語でもあり、邦訳すれば「多元性」「複数性」。政治思想である「多元主義」(Pluralism)に基づくこの用語を、本作品では「多元共同体」と訳す。



る独裁体制に変わったその時は、本官は現憲法を奉じて政府を討つ！それが軍服を着る市民の、民主主義政体に仕える軍人のプロ精神だ。軍人は栄光とか伝統とか、得体の知れない亡霊なんか仕えるんじゃない。生きていて、仕えるに値する誰かのため、何かのために戦うんだ。ただ息をしているだけでは、ヒトとして生きていくことにならない。金が欲しい、地位が欲しい、だが名誉も欲しくて一働き。本官が欲しいのはそんな人間だ。それがタイタンの愛国心だ。しかし逆に聞こう。今のロシアは人民が幸せに暮らす国か。お前や部下が名誉をかけて守るに値する政府か。考えるべきなのはお前の方だ。

アルアミラル そんなことが許されると思うのか。第一、俺が推挙する連中を輸送する手段がどこにある。

アリストアー あるとも。忘れたか、本官は東アジア担当船団の指揮官だ。

アルアミラル おい、まさか！

アリストアー 何が悪い。船団に乗るのは六〇〇,〇〇〇人だ。お前が推挙するのは一〇〇人か、一,〇〇〇人か。人間はみな平等だ。アジア人とロシア人、入れ替えたところで誰に文句が付けられる。データベース業務にミスは付き物だ。

アルアミラル あざといな。公私混同という言葉を知ってるか。

アリストアー 本官は火星で、国連の命令により、二〇〇,〇〇〇人の労働者を見捨てて逃げ出すハイパーコープの幹部を護衛したその時に、真に救うべき弱い者を、本当に救うことができる者を救うのが使命だと誓ったんだ……。軍人は慈悲深きアッラーじゃない。人類全てを守ることなんて出来はしない。救われるに値しない卑怯者、救うことができない不運な者、それはもうわたしたちの職分外だ。その思いがあったればこそ、本官と部下は今日まで正気を保ったまま戦い続けた。せめて希望のカケラに尽くそうと努めてきたからこそ、正気を保っていられた。さあ、お前はどうなんだ？（と静かに）

（アルアミラルとアリストアー、黙ったまま並行）

アルアミラル 断ったら、俺を撃墜するのか。

アリストアー 本官はお前という人格を信じた。である以上、お前に選択の自由を委ねる。

アルアミラル 俺が今の話を上に伝えたら、どうする？

アリストアー 好きにしろ。

アルアミラル あっさりだな。

アリストアー 本官から言えるのはこれだけだ。お前の言う通り、空戦でメッキは通用しない。アレクサンドル＝アルアミラルという人間の中身は今戦ってよくわかった。ケレン味のない真っ直ぐな男だ。わたしはそういう男が好きだ。そういう人間と共に飛びたい。それだけだ。



アルアミラル 好きだと？ ならば俺が求めれば股でも開くか、ア？

アリスター 何を動揺してるんだ。(と笑って) 愛する部下が必要とするなら、身体くらい提供するさ。だが少佐殿はその程度の望みしか持たない人間か？ だったら安すぎる買い物だな。本官が目指すのはもっと高みだ。正義と平和、それを机上の空想家のオモチャにしてはならない。その言葉の意味に太陽系のわたしたち八〇億人の存亡が懸かっている。そして軍人には市民に尽くす義務がある。正義と平和、まったくの矛盾さ。正義を極めれば圧政になるし、平和を突きつめれば争いが抑止され、弱者は強者に抗うことさえできなくなる。相容れない二つの理想。だが真の戦士は宇宙平和という見果てぬ正義を目指して、誰もが自分らしさを出して暮らしていける自由な世の中という夢を目指して戦うんだ。下らないと言ってくれてかまわない。でもな、正義のため、平和のため、次の世代の未来のため、アルアミラル、軍人であるお前には何かすべきことがあるんじゃないのか？

アルアミラル ……考える時間をくれ。部下と相談したい。

アリスター 遺憾ながら、時間の猶予はわずかしかない。

アルアミラル ああ、分かっている。

(アルアミラルとアリスター、黙ったまま並行)

アルアミラル おい、さっきの話だが。

アリスター うん？

アルアミラル 本気か？

アリスター 本気だ。

アルアミラル それはだ……俺が言ってるのはだ……本気でベッドインするつもりで……。

アリスター 本官は本気だが、実行するかどうかは君の紳士さに任せよう。(と笑って)

アルアミラル あんた、一体何歳なんだ。俺より年上なのか、まさか。

アリスター パイロットのキャリアで言えば六年だ。それから海軍大学に上がって……。

アルアミラル ……その件はまたにしよう。別に聞きたいことがある……さっきの空戦の件だ。

アリスター どんなこと？

アルアミラル 俺の機に細工したな、違うか！ (と怒り)

アリスター (平然と) したよ。だが性能に変わりはないはずだ。

アルアミラル ハッキングか、そうだろう。クローズドの兵器システムにどうやって侵入した。

アリスター ああ、クローズド・システムだからといって外部からアクセスできないわけじゃない。手はいくらでもある。

アルアミラル どういうことだ。

アリスター サンダーボルトに着艦した時、君の機体は脚を出した。

アルアミラル ああ、通常どおりにな。それがどうした。



アリスター そしてうちの副長の指示に従い、うちの整備班が着陸脚の点検をした。

アルアミラル ああ、通常どおりに……ッて、おい、その時に何か仕込んだのか！

アリスター 大したことは何もしていない。いわば一種の探査機だ。あえて言えばな。

アルアミラル そこから機体のコントロールシステムに侵入したのか、魔女のバーさんめが！

アリスター 乗っ取りには少々時間がかかったよ。君があんまり本官のお尻を追いかけて回したから！（と笑う）

アルアミラル まったく……手品の種というヤツはいつも単純だな。やられたよ。（とため息）

アリスター どうする。やり直すか。といっても無駄なエネルギーを使いたくないんだ。さすがに疲れたよ。

アルアミラル いや、俺の負けさ。あんたにはしてやられた。女だと侮ってすまなかった。

アリスター それはこっちのセリフだ。地球にまだこれほどのパイロットがいるとはね。

アルアミラル あんた、戦闘機上がりだな。まさか、あんたみたいなパイロット、土星にゴロゴロいるとかいうんじゃないだろうな。

アリスター 言った通りだ。乗っていたのは六年だけさ。が、少なくとも当艦の戦闘機隊の連中は良い腕だぞ。後で試してみるといい。

アルアミラル そいつは御遠慮申し上げる。俺にもプライドというのがあってな。

アリスター 本官にもさ。だが孫子曰く、「廉潔は辱めらるべきなり」ってね。

アルアミラル 何だ、それは？ 孫……何だと？

アリスター 何でもない。少佐はいい男だということさ。

アルアミラル さすが大佐にはかなわんな。（と苦笑い）

（夕暮れの中、アルアミラルとアリスター、キャノピー越しに互いを見遣り、思わず笑い出す）

アリスター クックックッ……。

アルアミラル ハハハ……。

（アルアミラルとアリスター、笑いの発作が収まると）

アリスター そろそろ通常回線に戻そうか。

アルアミラル 了解だ、アリスター大佐。

イム ……長、艦長！ 応答してください、艦長！ 聞こえますか……。

アリスター こちらアリスター。よく聞こえる。どうした副長、トラブルか？

イム それはこちらのセリフであります。通信が断線で、みんな心配しております。

アリスター 心配するな。内輪でデブリーフィングをしていたところだ。異常なし。

アルアミラル こちらアルアミラルだ。同じく異常なし。

イム 了解。それで結果は？ 勝負はどうなったのでありますか？（と当惑しながら）

アルアミラル ああ、それは俺の……。



アリスター 引き分けだ！ お互い兵器システムが不調になってね。

イム はあ、引き分け。艦長、本当でありますか？

アリスター イム。本官が嘘を言う理由があるか？ 待て、なんかそっちから雑音ざつおんがするようだが……。

イムの周り チェッ、なんだよー。
隊長が勝ってたはずなのにナ。
勝ったのは艦長の方ですう、もう。

イム いえいえ、何でもありません。(と知らん振り)
こらお前ら、静かにしろ。(と振返り)

アルアミラル 燃料と酸素さんそが半分を切ってる。そろそろ上昇じょうしょうしないか、艦長。

アリスター うん、いや、待て。ナビによると現在位置は……よし、北北西ほくほくせいに進路をとれ
(North by NorthWest)、アルアミラル。台北タイペイに向かう。

アルアミラル なんだと？ 今度は何を考えている。台北は今……。

アリスター ……そう、船団に乗り組む難民でゴッタがえしている。一度現場を見たいと思っ
ていたのさ。わたしたちが護衛するはずの未来をね。

アルアミラル なるほど、了解だ。

アリスター 聞いたな、副長。補給しきつと視察しさつを兼ねて台北空港タイペイに着陸する。艦は君に任せる。
外交問題がいこうもんだいは本官名義で処理してくれ。帰還は二時間後だ。以上、通信終了。

イム 了解。ああ、お待ちください、艦長。国連司令部からの要請です。「中国担当の
船団にてシャトル衝突事故しやうとつ いりよう。医療スタッフならびに艦載機に余裕あれば、至急上海空
港シヤンハイに回されたし」。先方は立ち往生おうちじやうのようであります。どうしますか？

アリスター よし、では二機とロボット医師を送ってやれ。一機は残そう。アリスター終了。

イム 了解、サンダーボルト終了。

アルアミラル それから艦長、今後は俺のことをアレックスと呼んでくれ。

アリスター 了解だ、アレックス。よろしくね、マーイ・スウィート・フェロウ〜。(と軽口)

アルアミラル やれやれだ。

(夕日に向かってアルアミラルとアリスター、飛び去る)

——幕——